

公民連携による地域拠点施設の再生 ～気仙沼内湾地区の地域拠点施設の事例紹介～

2022年6月21日

立命館大学 理工学部 建築都市デザイン学科

阿部 俊彦

1

前期スクールのテーマ 多世代の居場所となる駅前の地域拠点施設について考える

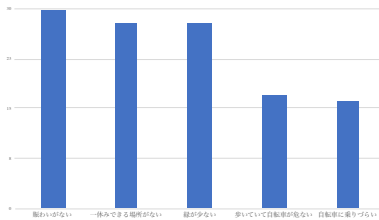
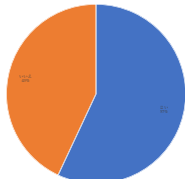


2020.10.14 UDCBK 堀見康博先生のスライドより引用

駅前の公共空間(=パブリックスペース)は、車やバスのための空間になってしまっている。

2

南草津駅を利用する人、158人(大学生89人、大学生以外67人)を対象に現状についてのアンケート調査を行った。

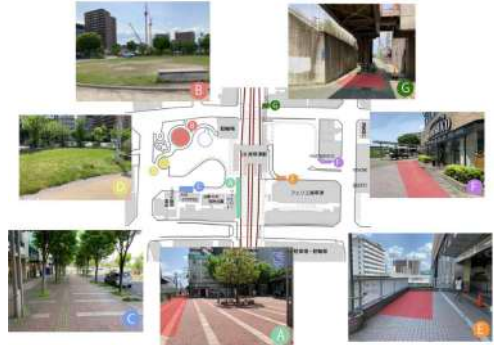


過半数(57%)の人が当地区に不満を持っているのことがわかりました。
中でも、約3割の人が、「一休みできる場所がない(29.5%)」と答えている。

(2020年社会実験準備事業より)

3

歩道も、歩行者の通過動線としてしか使われていない.....



4

阿部研究室の「パブリックハック」の取り組み



公共空間において、個人が自分の好きなように過ごせる状況が実現すること。賑わいづくりとは異なる、そのまちらしい魅力をもたらす。

(引用：笹尾和宏さん)

5

阿部研究室の「パブリックハック」の取り組み



危ないことはやっぱりダメ？

6

駅前広場を車のための交通ターミナルから、人のための交流ターミナルへ。

駅前広場を使うのは市民。市民が公共空間を自由に使える時代。アフターコロナでは、ますます屋外空間利用が促進されて、市民が主体となって駅前広場、道路、公園、空き地を自由に使えるようになる。



引用：あべとよたプロジェクト (飯田聡さん)

駅前広場をシェアスペースへ



7

学部3回生の設計演習課題「南草津駅前広場のリニューアルの提案」(今年もやっています!!)



8

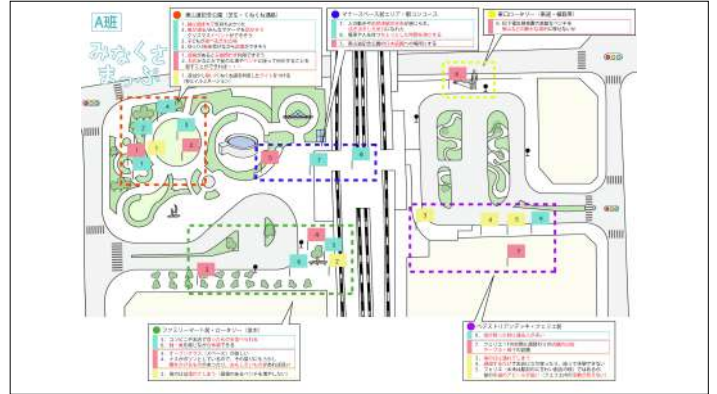
2021年 UDCBKによる南草津駅周辺の
パブリックスペースを考えるワークショップ



アクティビティカードを使って、駅前での生活、本当にそこで
したいことは何なのかを話し合った。



9



10

したいことを実現するために、必要なベンチ・テーブル・樹木などの模型を使って、
駅前での生活をイメージする。



ストリートピアノも！

11



12

各班で表現した模型を合体して発表！



13

模型で表現したことを、本当にできるのかどうか試してみよう！



14

駅前広場の歩行者専用デッキも活用してみる！



実際にやってみると、まわりの目が気になったり、法律などの課題がわかる。

15

①「草津市立地適正化計画」により
都市機能誘導区域に指定されていま
す。
→拠点の一つとして、都市機能を集
中させることで、持続可能な都市を
実現しようと計画されています。



②草津市まちづくり推
進懇話会では、ウォ
カブルなまちづくり
の推進が掲げられていま
す。
→交流・滞在を促す魅
力のあるまちづく
り、賑わいや健康づく
りに資するウォーカ
ブルなまちづくりの推
進に向け、歩行者や自
転車の利用促進など誰
もが利用しやすい環
境づくりに取り組むこ
とが課題とされている。



16

みなくさビジョン (2021.10.1)

草津市では、みなくさビジョンを策定しましたが、南草津駅前の賑わいづくりや、産官学連携、歩行者や自転車の安全性の確保について、示されています。

17

18

南草津駅前の居場所となる公共施設のあり方を考える

問題点

- 1) 車を利用したい住民と、車を持っていない学生。車のための駅と、歩行者のための駅。駅に求めるニーズのミスマッチが生じている。
- 2) 一方で、車を持っている住民は、駅に賑わいを求めている。商業施設や利便施設は、国道や取り付け道路の沿道に。(駅前の西友から撤退したはずのM印が駅から徒歩15分のアムタムに復活) 車を持っていない学生も、駅に賑わいを求めている。買い物は大阪・京都へ、BBQは湖畔へ、駅前に必要なのは安い居酒屋とラーメン屋。
- 3) 時間帯によって、利用状況が大きく異なる。(車は朝・夕方メイン)
- 4) 地元商店街のような駅前を何とかして活性化しようという主体が見えない。

19

とは言え、駅前のマンション開発が進む。駅の利用者が増えている。車の送迎や通勤通学時には、駅を利用せざるを得ない。交通社会実験をするも、課題は山積・・・バス待ちや車の送迎を規制することはできない・・・

だったら、バス待ちや車の送迎の人たちが、駅前で快適に過ごすことのできる場所やコンテンツを創出できないか？誰がそれを担うのか？行政？民間事業者？住民？大学？学生？

20

令和4年度前期 アーバンデザインスクール

多世代の居場所となる駅前の地域拠点施設について考える

地域拠点施設の先進事例の学習を通じて、子どもから学生、子育て世代から高齢者まで、多世代の居場所となるJR南草津駅前の公共施設の在り方について、5回シリーズで考えていきます。

オンラインアーカイブ 配信あり
1回のみでも受講可
受講無料 事前申込制

第1回 6月23日(木) 16:00~17:30
テーマ 「公民連携による地域拠点施設の再生」
・南草津駅前の居場所となり公共施設のポテンシャルと課題
・復興で再生された地域拠点施設、気仙沼内湾ムカエル・ウマレルの事例紹介
講師 阿部 俊彦氏 (UDCBK副センター長、立命館大学 理工学部 建築都市デザイン学科 准教授)

第2回 7月9日(土) 13:00~14:30
テーマ 「全国の地方都市の駅前再開発と地域拠点施設」
・地域拠点施設に着目した地方都市の駅前再開発とまちづくり
・全国の地方都市の地域拠点施設の事例紹介
講師 辰巳 寛太氏 (株式会社アル・アイ・エー 東京本社 開発企画部 室長)

21

・地域拠点施設に着目した地方都市の駅前再開発とまちづくり
・全国の地方都市の地域拠点施設の事例紹介

講師 辰巳 寛太氏 (株式会社アル・アイ・エー 東京本社 開発企画部 室長)

第3回 8月5日(金) 16:00~17:30
テーマ 「地方都市の駅前の賑わいづくりとまちづくり会社」
・福井駅前の再開発事業を核とした中心市街地のまちづくりの紹介
・まちづくり会社の役割
講師 岩崎 正夫氏 (まちづくり福井株式会社 代表取締役社長)

第4回 9月8日(木) 16:00~17:30
テーマ 「インクルーシブな居場所となる地域拠点施設」
・名古屋市ソニー大曽根の事例紹介 (団地のスーパー跡のリノベーション事例)
・市民事業や社会的事業による居場所づくり
講師 岡田 昭人氏 (早稲田大学 都市・地域研究所 招聘研究員)

第5回 10月7日(金) 16:00~17:30
テーマ 「稼働率100%の地域拠点施設のマネジメント」
・富山グラウン Plazaなどのまちなかの公共空間の事例
・公共施設の完成前/後のマネジメントの重要性
講師 山下 裕子氏 (まちなか広場研究所 主宰、UDC信州 アドバイザー)

コーディネーター: 阿部 俊彦氏

22

私は、2011年からこれまでの10年間、宮城県気仙沼市の復興まちづくりに関わってきました。その中心である内湾地区は、全国的にも有名な港町

海と山とまちが一体となった景観が特徴的。8月には、太鼓台が湾を廻る「みなと祭り」が開催されます。

23



24

内湾地区も津波により被災したが、比較的被害は少なかった。



震災前から、防潮堤の無いまち。しかし、木造の建物は流されましたが、その他の建物は残った。海の見える最前列で亡くなった人はいない。(気仙沼市の死者・行方不明者数は 1373名)

25

内湾地区よりも大きな被害があった低地のエリア。家屋の多くが流されてしまった。



26

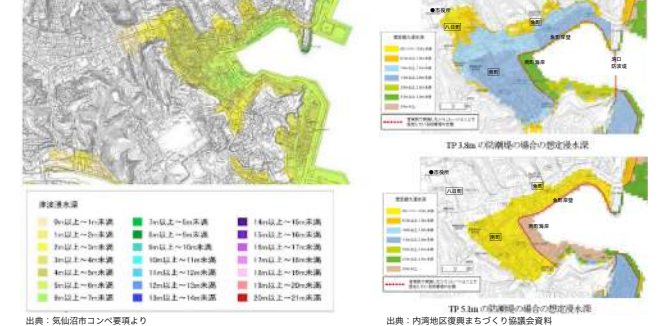
内湾地区には、高さ5mの防潮堤の計画が示され、市民が反対した



その理由として、防潮堤によって港町の魅力が失われたら、生業（水産、観光）が続けられない。命は、防潮堤ではなく避難路で守れる。

27

防潮堤を設置しないと、災害危険区域（住宅の再建は不可のエリア）が広がり、多くの住民が移転しまう



出典：気仙沼市コンペ委員より

28



・生命財産を守るための防潮堤によって、気仙沼の人たちが生活していくための商売が成り立たない、すなわち生きていけない
・海辺にいる意味が無くなってしまふ。観光客は、海と漁船の風景を見て、魚を食べにくるので、必要とされない町になってしまう

29



・避難路を考えないで、最初に防潮堤ありきでは話し合いにはならない。防潮堤を作ると「大丈夫だ」と思って、逃げることを忘れてしまふ。魚町では、ほとんど亡くなった人はいない。それよりも避難路を整備してほしい。
・防潮堤は上からの押しつけ。別の方法を県にも一緒に考えてほしい。

30

他の地区では、十分な協議が行われずに、当初の計画通りに防潮堤が建設された地区もある



防潮堤のことだけを議論していても、計画が定まらないため、復興が進まない。どうしたらよいのか？

31

2011年 内湾地区復興まちづくりコンペ（優秀賞、早稲田大学）



海側の防潮堤だけでなく、まち側の復興（住まい、産業、商業）を考えること。そのプロセスや体制づくりが重要であることを提案。

32

ワークショップでは、復興した我がまちで、どのような生活がしたいのか？
まず、被災後のまちを歩いて、残されている地域の資源を確認した。



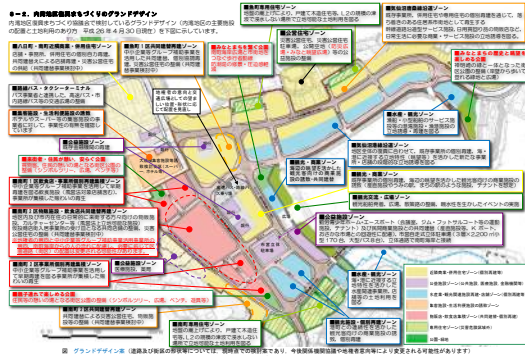
33

模型を使ったワークショップでは、復興した我がまちで、どのような生活がしたいのか？
海辺でのアクティビティ、まちづくり、デザインのアイデアについて話し合った。



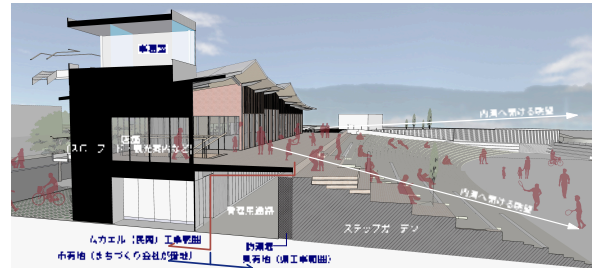
34

内湾地区復興まちづくり協議会では、100回以上の会議を繰り返し、計4回の提言を段階的に行った。



35

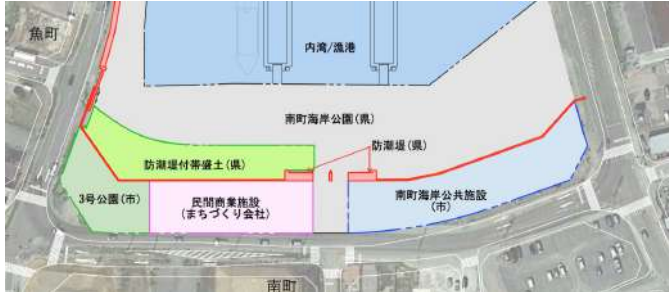
市民が納得いくまで、防潮堤のデザインとまちづくりを検討



防潮堤の高さを低減させた。
県、市、まちづくり会社が調整し、斜面緑地と観光施設で防潮堤を挟み込んだ。

36

宮城県、気仙沼市（観光課、都市計画課など）、まちづくり会社など、多様な主体がバラバラに事業を進めるのではなく、
何度も相互調整を行い、海とまちが防潮堤で断絶されないようにシームレスな空間にするために努力した。



37

海とまちが一体となったウォーターフロントの景観



海とまちを断絶しかなかった防潮堤計画でしたが、最終的に、海とまちをシームレスにつないだ空間が実現

38

防潮堤の上を海を見ながら回遊できる遊歩道へ



39

津波を防ぐための防潮堤を、市民や観光客が集まる広場へ



斜面緑地は、あくまでも避難施設として整備

でも、ふだんは、市民や観光客のための公園として利用

40